

唐津の祭り⑥祇園祭と各地のくんちほか(4/4)

分野 文化

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

～3/4からつづく～

■相知くんち

熊野神社の秋の大祭で、古くは「供日（くにち）」である10月19、20日に行われていた。

祭りの主役は「羽熊（はぐま）」と呼ばれる毛槍を投げ渡ししながら進む江戸時代末期の大名行列を模した行列。

この羽熊大名行列は、唐津神社の『神祭行列絵図』にも描かれているように、元をたどれば唐津くんちの際に行われていた。

明治6（1873）年、唐津神社から相知村の村社であった熊野神社に毛槍や

挟み箱が譲られたことから、相知で羽熊大名行列が行われるようになったという。

相知くんちでは「羽熊」に続き、稚児行列、神輿行列、鐘を打ち鳴らす中山浮立（ふりゅう）、大野大黒舞、山笠が続く。翌日は大人と同じ形態の「子供羽熊」が山笠等を引き連れて巡行する。なお、本祭前夜には宵山も行われる。

大名行列はもともと「羽熊」の行列は、安政年間（1854～59）から、唐津くんちで毛槍や挟み箱を持ち、大名行列を模して唐津神社の神輿を供奉する行列が行われていた。

また、この行列は唐津藩主・小笠原氏の参勤交代の様子を模したと言われている。

明治6（1873）年、唐津神社から相知村の熊野神社に毛槍や挟み箱が譲ら

れたことから、熊野神社の祭りに「羽熊行列」が加わることになった。毛槍を投げ渡ししながら更新する形態は、全国的に見ても珍しい例である。

大野大黒舞は明治以前から行われていた伝統芸能。一時中断していたが、住民の努力により復活した。恵比寿、大黒天、毘沙門天、弁財天、福祿寿、寿老人、布袋の七福神に扮した女性たちが、大黒舞の歌とともに目出たい振付けで舞い踊る

【場所】唐津市相知町内

◎エピソード・伝承・うんちく など

■相知くんちで唐津藩の大名行列

明治6年旧唐津藩主小笠原長国氏が転居するに当たり、唐津神社にあったご紋章入りの幕、参勤交代に使用した所道具(毛槍など)を払い下げてもらい、それ以降、熊野神社神祭では、羽熊（はぐま）行列、御神輿行列、稚児行列が行われ、その後山笠が旧宿場町町内をひき回す。



相知くんち



相知くんち「大名行列」



相知くんち「大野大黒舞」

(唐津市フォトライブラリーより)

◎引用・参考文献（出典）

◆唐津市フォトライブラリー

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467